

ジュエリー文化史研究会からのお知らせ—257—

2016.9.21

◎アレキサンドライト発見に関する情報(2)

吉田明泰さんより

昨日まで香港ジュエリーショーに出かけていたのですが、GIAのブースに、Russian Alexandraite という本が並べてあり、青木さんが言及されている論文の写真なども載せられていました。

皆さまにお知らせいただく程の内容ではありませんが、アレキサンドライト(とロシア産エメラルド)に関してかかれた本なので、参考に値するかと思いいメールさせていただきます。

御徒町のGIAのラボなど、どなたかがお持ちなのではないでしょうか。アマゾンでも買えるようです。

<https://goo.gl/9xVMfb>

また、この問題の解決には、「発見」の定義も重要だと思います。

この夏、私が時々鑑別にだすおじさんが kyawthuite という新しい宝石の発見者として突然脚光を浴びました。

会って話を聞いてみると、なんでも彼がその原石をシーライトを算出する鉱山で発見したのが10年近く前のこと。

自分で研磨して、シーライトとは違う石だと気づいたものの、何の石かわからず、バンコクの手鑑別機関何社にも鑑別を依頼し、どうやら新種の宝石かもしれないとわかるのに、また数年。

やっと然るべき機関に登録されたのが今年、と、石を手にしてからかなりの月日が流れています。

発見の定義を、

- (1)石を手に入れた時点
- (2)研磨後いろいろ検討しても正体不明で、新種かも？と気づいた時点
- (3)バンコクの手ラボで、最新機器を用いた分析でも同定できず、新種の可能性がある、と言われた時点
- (4)米国 GIA で高度な分析の結果、新種だろう、という結論が出た時点
- (5)論文を取り揃え、学術誌に掲載された時点

のどれにとるかによって、今回のアレキサンドライト発見の時点が、いろいろ分かれてくるようにも思います。

ジュエリー文化史研究会  
<http://www.j-bunka.jp/>

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com  
幹事 戸倉博之 spina@precious-chroma.com